



ひたちガーデナーズ倶楽部特集



公園では「バルブガーデン」を「ひたちガーデナーズ倶楽部」の皆さんに維持管理をお願いしています。リユニアルをめざして毎週木曜日に作業しています。秋の草花と活動の様子をお知らせします。

入会1年目の感想

安部井薫さん

先輩会員の方からの誘いによって入会した。

昨年の11月22日が初参加であったが、あのフィールドでの除草作業くらいなら務まるだろう。多少の庭いじりや、森林ボランティアなどで汗を流しているの、程々の事にはついていけると思いがあった。

しかし、何回か活動に参加して行くうちに、自信がぐらついてきたのである。花や草木の名前がサッパリわからないのだ。見るのも、聞くのもはじめてのものが多過ぎる。特に野草がわからない。聞いてもすぐ忘れてしまうし“これから覚えるのも大変だ”との思いが強くなり、困ったなーと嘆いたのである。

又、除草作業にしても、刈払機で一気にサーというわけにもいかない。カマで刈り取るにしても野草などを十分に見分けてやらないと、とんだ失敗を演じる事になる。

でも、誰かが言ってくれた。「はじめは皆そうなんだよ」と。そーだ、なにも作業は除草ばかりではない。花や草木の名前などそのうち覚えるだろう。と半ば開き直り気味に自分に言い聞かせてきた。

おかげさまで、ユニーク(?)な吉川先生の講義あり、作業時の休憩の楽しみ有り、今年に入って、オープンガーデン見学会、バーベキュー、沢田湧水見学会などの楽しい行事が続き、自分にとって新たな分野に入れた事で、大変良かったと思うこの頃である。

さて、昨年の活動計画予定表には、ワイルドバルブガーデンを「自然をいかしながらゆったりとした時間を過ごせるような空間にしたい」とある。

あるガーデンセンターの経営者の新聞記事に“自然を感じる原点を大切に”の見出しで、自然を感じることは、身近にある植物を大切にしながら、多様に植物たちと共に暮らせる事である。とあっており、例えばアガパンサスなどの宿根草は背丈が1メートル以上あり、実にのびのびしている。自然の植物たち自身が見せるパフォーマンスを楽しみたい。と書いてある。

そして「フィールドザネチャー」という言葉が、その本質を言い表しているとも書いてあります。

私も最近はこの記事に目が止まるようになりました。

活動をはじめて1年、この考え方を私なりに理解し会員の皆さんと共に頑張りたいと思います。



副代表世話人
(役員)をしています。



ネリネ



ヒガンバナ



ネリネ



ワイルドバルブガーデン



ムラサキシキブ

今日もよく働きました!

